

ひろしまの遺跡

第121号

「鞆の浦」の雁木調査は続く！

— 鞆港湾施設跡 (福山市鞆町) —



東雁木の下から検出した石垣と暗渠

福山市鞆町では、鞆の浦の港湾施設のひとつである雁木について、高潮対策のための防潮堤設置に係る雁木の修復工事に伴う発掘調査を行っています。

前号 (第120号) で紹介した東雁木の北側で検出された石垣について調査を進めたところ、さらに現在の道路の下に続いていることが分かりました。この石垣のラインは、大正時代の地図や昭和初め頃の写真に見える当時の海岸線と位置がほぼ一致します。また、石垣の陸側には繫船柱 (基礎部分) が残されていました。これらのことから、この部分の雁木は昭和になってから、現在の道路幅に拡張された時期に築かれた可能性が高いことが分かりました。(恵谷泰典)

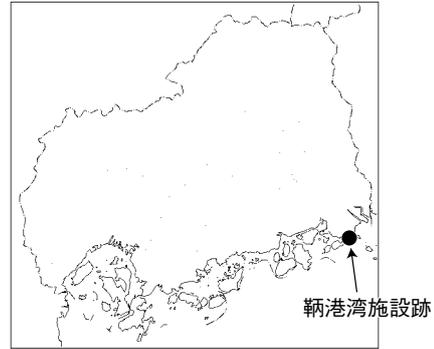
発掘調査速報

① 鞆港湾施設跡（福山市鞆町鞆）

調査期間 平成30年4月9日～平成31年3月15日

発掘調査を実施中の東雁木は、昨年度実施した北雁木の東側端部からやや屈曲して続いています。12月までは、約20mの範囲で雁木の石材について記録を取りながら除去し、工事の影響が及ぶ範囲を掘削した結果、昨年度発見した北雁木下の石垣が東雁木の下へ続いていることが分かりました。

本年1月以降調査を進めている南寄りの部分では、雁木の下半分はコンクリートに置き換わっています。コンクリートの下には土砂やモルタルなどが確認されていますが、石の雁木はほとんど残っていません。おそらく潮の干満や台風などの波浪の影響により石の部材が失われたため、コンクリートで置き換えたものと思われます。また、石の雁木が残っている部分も、裏側にコンクリートが使われるなど新しい工法が見られることから、北雁木と同じように後世の修復を経て現在に至っていると考えられます。（金石明久）



東雁木下の北雁木から続く石垣



道路の下から検出した繫船柱

発掘調査報告会を開催しました

平成31年3月9日（土）に福山市鞆公民館ホールにおいて福山市文化財講座（MO鞆公開講座）第3回を開催し、東部建設事務所による調査に至るまでの経緯、調査室が今年度実施した港湾施設跡（東雁木）の調査成果を報告しました。多くの方々にご参加いただきました。

（主催 福山市教育委員会と当調査室、共催 広島県教育委員会）



報告会の様子

作業風景 から

満潮の時は…

靱港湾施設跡の発掘調査では、港湾施設の整備として雁木の修復工事が行われますが、満潮になると調査対象の雁木が海に水没するため、屋外での作業はできなくなります。そこで、満潮の時間帯には、調査中に作成した実測図や調査カードの整理作業を行います。

調査では、雁木の石材を全て記録しています。まず、設置されている現況の観察を行い、ドローンにより空中から写真測量した雁木の実測図を校正していきます。次に、撤去工事に伴って石材の基礎部分など設置状況を観察・記録します。雁木は、修復に備えて通し番号を付けており、取上げた後は台船の上などで1個1個の観察と写真撮影を行い、全てを調査カードに記録していきます。

このような記録は、修復作業をする上で必要なデータとなります。また、繋船柱については、修復した後では刻まれた銘文などの一部が見えなくなるため、拓本などの記録を残しておくことも重要です。

(恵谷泰典)

こんな仕事もしています

埋蔵文化財調査室では、広島県教育委員会から委託を受けて、出土遺物の管理と貸出業務を行っています。博物館などから企画展に資料を展示したいという申し出を受け、担当者が遺物の準備をします。貸出当日は博物館の学芸員と当室職員と一緒に遺物の状態を確認します。割れ欠けの有無や汚れがついていないかなどを確認し、記録をとります。確認が済んだ遺物は運送時に壊れたりしないよう、一つずつ丁寧に綿などで包装してから梱包します。なお、企画展が終了し遺物が返却された際も、展示や運送で遺物の状態に変化が起きていないかを貸出時の記録と照合しながら確認します。とても手間のかかる作業ですが、普段は収蔵庫にしまわれている遺物を皆さんに見ていただける貴重な機会となりますし、日頃目にすることのない遺物を出して触れることもできるため、実は楽しみの多い仕事です。

(順田千織)



実測図の整理作業



雁木石材の記録作業



貸し出す遺物は
隅々まで状態を
チェックします



梱包された遺物たち

平成30年度

ひろしまの 遺跡を語る

広島の遺跡2018

—報告と講演—

平成31年1月19日（土） 広島県民文化センター

平成最後の年の初めに、当調査室が実施した調査報告3本と、記念講演に静岡大学名誉教授の小和田哲男さんをお招きして、いつもの県民文化センターの大ホールで「ひろしまの遺跡を語る」を開催しました。

小和田哲男先生は、小学校5年生の時から戦国時代の山城に興味をもたれ、それから50年以上さまざまな観点から山城をご研究されてきた成果や歴史ドラマの時代考証の裏話などを交えて、1時間半ほど中世の山城の魅力を語っていただきました。

当日、会場には322名の来場者があり、調査報告とともに大変熱心にお聞きいただきました。

(伊藤 実)



講演の小和田哲男さん



報告風景



展示会場

平成30年度ひろしまの遺跡を語る ひろしまの遺跡2018 — 報告と講演 —

【第1部・報告】

- 13:00～13:10 開会行事
- 13:10～13:30 報告Ⅰ「鞆港湾施設跡の発掘調査」
- 13:30～13:50 報告Ⅱ「野原山城跡の発掘調査」
- 13:50～14:10 報告Ⅲ「上ノ城跡の発掘調査」
- 14:10～14:20 休憩（事務連絡・展示見学）

【第2部・講演】

- 14:20～15:50 「中世山城の魅力」
静岡大学名誉教授 小和田哲男
- 15:50～16:00 閉会行事

平和大通り 青空ギャラリー2019

平成31年1月20日（日）に全国男子駅伝協賛イベントの平和大通り青空ギャラリー2019に参加し、和同開珎の鋳造体験を行いました。11時の開始と同時に人が集まり、例年よりも多くの参加者がありました。溶かした金属が固まって、鋳型からキラキラのお金を取り出すときは大歓声！大人も子どもも楽しんでいただけましたようです。

(順田千織)



たくさんの方に体験していただきました

— 疑問を解決!? 考古学基礎講座 —

今年で7年目になる「ひろしま考古学講座」は、—疑問を解決!? 考古学基礎講座—と題して、当調査室職員による基礎講座を開設しました。毎回100名を超える来場があり、様々な時代のさまざまな事柄について、これからも機会をつくって、県民のみなさまに少しでも役に立つ考古学の情報を提供したいと考えています。

会場 広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）大・中会議室
（広島市中区基町4番1号）

時間 13時30分～15時00分

回	期 日	演 題	講 師(全て当室職員)
1	平成30年 12月1日(土)	旧石器・縄文時代のイロハ — 何が分かっているのだろう —	辻 満久 (当事業団埋蔵文化財調査室)
2	12月22日(土)	弥生・古墳時代のひろしま	山田 繁樹 (当事業団埋蔵文化財調査室)
3	平成31年 2月2日(土)	古代山城について考える — 神籠石(こうごいし)って何? —	島田 朋之 (当事業団埋蔵文化財調査室)
4	2月16日(土)	発掘調査員のお仕事	金石 明久 (当事業団埋蔵文化財調査室)
		中世の遺跡に見るまじない — 吉川元春館跡を中心に —	岩本 芳幸 (当事業団埋蔵文化財調査室)
5	3月9日(土)	中世の城館跡	沢元 保夫 (当事業団埋蔵文化財調査室)
6	3月23日(土)	近世・近代の発掘調査 — 広島陸軍兵器支廠の事例 —	順田 千織 (当事業団埋蔵文化財調査室)



考古学講座第1回



考古学講座第2回



考古学講座第3回



考古学講座第4回

知られざるひろしまの遺跡探訪

広島発！ローカル(乗合)列車・バスで行く遺跡探訪ツアー

後編

第3回 (平成30年10月27日)

西国街道を歩くー廿日市町屋跡とその周辺ー

第3回は廿日市市で、廿日市町屋跡を散策しました。この2～3年でJR廿日市駅周辺は大きく景色が変わりましたが、西国街道の通りは現在も道路として利用され、当時の町屋を思わせる細長い地割りもそのまま残されています。廿日市市教育委員会の藤田広幸さんの解説を聞きながら、江戸時代に描かれた絵図を片手に旧街道沿いを散策しました。廿日市の町屋は幕末の長州藩と幕府との戦いの中で町に火が放たれて焼け落ちており、その痕跡は発掘調査でもみつかっています。実際に発掘を担当した藤田さんの話に、皆さん耳を傾けていました。また、毛利元就と戦って敗れた陶晴賢の首実検が行われた桜尾城跡、その首塚がある洞雲寺など、歴史の舞台となった場所が多く残されており、盛りだくさんのツアーとなりました。(順田千織)



江戸時代に描かれた絵図をみて歩く



陶晴賢の墓にて



御土居遺跡 (後方は白山城跡)



平安時代の鏡を特別に拝見！

第4回 (平成30年11月17日)

平賀氏の築いた城・館と城下町

ー御土居遺跡と白市の町並みー

第4回は東広島市高屋町白市へ。平賀氏の館跡と考えられる御土居遺跡と、平賀氏によって基礎がつけられた白市の町並みを、東広島市教育委員会の吉野健志さんの解説で散策しました。御土居遺跡でみつかった道と、白市の町の道が平行であること、館と城をつなぐ道など、歩いただけではわからない話がどんどん飛び出しました。白市は近世にとっても栄えた町で、安芸国有数の豪商の木原家住宅(国重要文化財)や、焼酎の造り酒屋など、古い邸宅が多く残っています。白市を散策した後は正原地区へ移動し、薬師堂に納められた線刻十一面観音像(市重文)を見学しました。観音像は地域の方が大切に管理しており、普段は展示していませんが、特別に拝見させていただきました。鏡に刻まれた観音さまは平安時代のもので、とても珍しいものです。(順田千織)

考古学 アラカルト 51

しかもその元凶の一つに、感染したイノシシがこのウィルスを拡散しているのではないかという疑いが出ているなど、嬉しくない報道もされております。

いくら猪突猛進が得意技とはいえ四方八方に拡大しないように祈っております。

そもそも、家畜化したイノシシを指すのが「ブタ」という言葉で（中国では猪がブタで、イノシシは野豚です）で、分類学上は両者ともに同じ種（*sus scrofa*）です。なので、ありがたないですけど、豚コレラはどちらにも感染するのです。しかも感染力が強く、毒性も強いとのこと。今回流行？しているのは弱毒性らしいのですが、それゆえに一層の拡大が危ぶまれます。

人とイノシシの付き合いは遙か縄文時代にまで遡ります。例えば、広島県を代表する縄文時代の遺跡である帝釈峡遺跡群の観音堂洞窟遺跡（神石郡神石高原町）では、縄文時代の全期間を通じてイノシシはシカとともに主要な狩猟対象の動物となっています。イノシシは肉を食べるだけでなく、骨や牙が鏃などの道具や、アクセサリーに加工されるなど多様に利用されており、とても有益で身近な動物でした。

ところで、イノシシは暖かい地域に多く、寒い地域に少ない傾向があります。現在のイノシシは東北地方には少ないとされており、これは明治期以降の豚コレラの影響の名残と考えられています。しかし、縄文時代にはイノシシ形土製品や遺骸の存在などから、青森県北部を除く地域では生息していたと考えられています。上の写真は青森県弘前市の十腰内（とこしない）2遺跡からみつかったイノシシ形土製品です。きりりとした顔立ちに、ひづめなど細かい部分まで表現されており、イノシシをよく知っている人が作ったと考えられます。このような土製品は、イノシシの生息していない北海道からもみつかっており、イノシシが泳いで渡ったのか、交易品としてイノシシが本州から運ばれていたのか、興味深いところです。シカも身近な動物でしたが、イノシシのような精巧な土製品は残されていません。縄文人はイノシシに特別な意識をもっていたようです。

現在は農業被害などから嫌われ者のイメージが強いイノシシですが、太古の昔から、人とイノシシは様々なかわりを持って生きてきました。もし、イノシシ肉を口にする機会があったら、縄文人も食べた味か〜と思い起こしてください。

（辻 満久）

今年は何の歳！

今年は何支のトリを飾る我らイノシシの出番であります。年明けから景気よく突っ走りたいところなのですが、巷では豚コレラが流行の兆しを見せております。



十腰内2遺跡出土のイノシシ形土製品
（弘前市立博物館提供）



子どものイノシシ

お知らせ

平成30年度の発掘調査報告書を刊行しました。

ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

	書名	市町名	概要	頒価
埋文報告 第80集	天地遺跡 (第1～3次調査) 天地第1・2号古墳	福山市	丘陵尾根先端部に位置する弥生時代～中世の集落跡および中世の墓地である。古代の集落からは石帯・陶硯など官衙的な性格をもつものが出土している。天地第1・2号古墳は天地遺跡の西側尾根上に立地する方形状の古墳で、古墳時代前半期に築造されたと考えられる。	900 (送料別)
埋文報告 第81集	亀居城関連遺跡・ 亀居城跡	大竹市	亀居城跡の東麓に位置する近世の町屋跡である。17世紀中頃～近代の遺構面が確認された。亀居城の東端の郭である妙見丸では破城の痕跡が残る石垣を確認し、幕末期の台場跡とされる伝台場跡では平坦面を確認した。	1,900 (送料別)
埋文報告 第82集	地頭分溝淵遺跡	福山市	丘陵緩斜面に立地する弥生時代～中世の集落跡である。遺跡の位置する瀬戸町には「長和」・「地頭分」・「別所」などの地名が残り、中世・長和荘の一角と推定されることから、地頭分溝淵遺跡の中世遺構も荘園に関連すると考えられる。	1,500 (送料別)
埋文報告 第83集	夕倉遺跡	福山市	芦田川と瀬戸川により形成された沖積地縁辺部に位置し、丘陵斜面と沖積地の接するあたりに立地する。主に弥生時代～中世にかけての遺跡である。特に中世の遺物が多く出土し、丘陵上など周辺に中世集落が存在していると考えられる。	500 (送料別)
埋文報告 第84集	上ノ城跡	安芸郡 坂町	標高65mを最高所とする丘陵の先端に複数の郭を配した小規模な山城。城からは坂の町と浜辺を見渡せ、坂の民衆によって築造された「村の城」と考えられる。陶磁器から15世紀初頭～前半に利用され、15世紀中頃には廃城となったものと考えられる。	300 (送料別)
活動報告 第8集	平成29年度「ひろしまの遺跡を語る」 瀬戸内から考える邪馬台国とその時代－魏の使いは瀬戸内海を通ったか？－記録集	—	邪馬台国があった時代の西部瀬戸内地域の様相について、愛媛大学名誉教授の下條信之さんによる講演と、広島県内における同時期の遺跡についての発掘調査報告ならびにシンポジウムの全記録。	500 (送料別)
—	年報15	—	平成29年度における当調査室の実施した事業概要のまとめ。	—

あとがき

瀬戸内湾施設跡の調査も、2年目が終わろうとしています。潮の満ち引きにあわせて調査を行うなど、作業時間が制約されることもあります。はじめはとまどっていた職員も、今はすっかり慣れたようです。また、一年を通しての調査ですので、自宅より軒にいる時間の方が長い職員もいます。来年度も調査は続きますが、気を引き締めて頑張ります。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第121号

発行日 平成31年3月25日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

